家族や姉妹、兄弟、友達のような関係を

トライアングル交流宣言に調印

4/29

4月29日㈮、神奈川県海老名市で、登別市・宮城県白石市・海老名市3市による『トライアングル交流宣言』の調印式が行われました。

登別市は白石市と昭和58年に姉妹都市を提携。白石市は海老名市と平成6年に姉妹都市を提携し、以来、物産やスポーツなどによる交流を重ねています。

また、登別市と海老名市は、昨年4月に海老名市から消防自動車の寄贈を受け、また、登別市はポニーを寄贈するなど、白石市を中心とした親密な交流が図られています。

平成22年4月には、地震や噴火、水害などで被災した市を、ほかの2市が応援する『危機発生時における相互応援に関する協定』を締結。3月の東日本大震災では、被災した白石市を、登別市と海老名市が協力し物資を支援するなど、交流の輪は大きな広がりを見せています。

このたびの調印は、3市がこれまで以上に経済や市民の交流を深め、共に家族や姉妹、兄弟、友達のような関係を築き上げることを宣言し調印したものです。

式では、3市の議長、交流協会会長、商工会議所会頭、観光協会会長などが見守る中、小笠原市長、風間康静白石市長、内野優海老名市長が宣言書に署名し、変わらぬ友好とさらなる交流を約束し、固い握手を交わしました。

白石市の復興を祈願し植樹

調印式終了後、海老名市役所前の芝生で、トライアングル交流宣言の調印を記念し、植樹が行われ、白石市の木であるブナを植えました。

ブナの両脇には『困難に耐える』の花言葉を持つスモモの木を植え、東日本大震災で被災した白石市の一日も早い復興を祈願しました。

▲記念植樹したブナの木の前で3市長が握手